

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

「復興と明るい未来へ」

【7年目の春を迎えて】

熊本地震の発生から7年が経過しました。

熊本地震により犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、「ご遺族の方々にお悔やみを申し上げます。また、被災をされた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

早いもので7年の歳月が経ちましたが、今でも震災当時の記憶、体中を駆け巡った感情が色あせることはありません。7年前の震災を決して風化させることなく、あの日の出来事に一人ひとりがしっかりと向き合い、現実を受け止め、後世に伝えていかなければなりません。いつ、どこで災害が発生するか分かりませんが、常日頃より災害への最低限の備えや対応が、いざという時に大切な人を守り、支えることに繋がります。熊本県のさらなる創造的復興に向け、県民一丸となり力を合わせて頑張りましょう。

【食料安全保障は農政の中心】

先日、都内で開催された令和4年度JAグループ農政推進の集いに出席いたしました。全国のJAグループ・農政運動の代表者や、与党国会議員が約500名出席されました。与党議員代表として江藤拓総合農林政策調査会長から「農政を支えることは、国を支えることだ。基本法は、未来志向の改正を

指す。」と強く述べられました。また、森山裕食料安全保障に関する検討委員会委員長からは「再生産可能な適正な農産物の価格形成の法制度整備に向け検討を加速化している。」と強調されました。

これ以上、日本農業を疲弊させるわけにはいきません。生産基盤と食料安全保障の強化を進め、国民のためにも、安心して食料を安定的に供給し続ける生産現場の取り組みを全力で支援しなくてはなりません。引き続き全国の皆さまからご意見を頂きながら、持続可能な農業の実現に向けて尽力してまいります。

先月開催された野球の世界一を決める2023WBC。私もテレビ越しですが応援させていただきました。一次ラウンドから順当に勝ち続けた侍ジャパンのチーム力には圧倒されました。熊本出身の村上宗隆選手と牧原大成選手活躍もあり、14年ぶり悲願の王座奪還を成し遂げました。侍ジャパンの選手皆さまには日本中に勇気と感動を与えていただいたことに敬意を表します。



▲参議院農林水産委員会にて答弁

全国・県農政連推薦
参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

3月7日の

参議院予算委員会にて質疑

【米の生産調整および需給や価格の安定対策について】

まず米の生産調整について、目標設定と達成状況を質問しました。これに対し「令和4年産は3.9万haの作付転換が必要であったところ、5.2万haの転換が図られた」、また、米の需給は「相当の需給改善が行われた結果、米価は回復基調にある」との答弁でした。

次に、米の需給や価格の安定対策についても政府に問いました。これに対し「麦や大豆など需要のある作物への転換や畑地化への支援、ナラシや収入保険といった収入減少への対策を講じ、かつ、米の輸出や新たな需要拡大対策を着実に進めていく」という答弁でした。

私は、我が国の気候風土の中で築き上げられた主食である米を中心に、その需給調整や農用地の活用、農業者の所得実現に向けて、農業者、JA、自治体などが一体となり、話し合いと工夫を重ねながら取り組んでおられる意義と重要性をしっかりと訴えました。

【規制改革推進会議による競争原理の導入について】

また、私は政府に対し「規制改革推進会議は過度な競争原理を押し進めてきているのではないかと」「農業者や消費者の努力をもっと評価すべきではないか」と質問しました。これに対しては、「規制改革の要望者からだけでなく、見解を異にする関係団体などの意見も聴取するなど、丁寧に対応していく」「農業分野は農業団体や農業者などの声、また農林水産省の見解も聞きながら議論を進める」との答弁でした。

私は、規制改革推進会議による急進的な競争原理の導入は、地域の協同の取り組みに悪影響を及ぼしかねないと危惧しています。今後、地域の実態を踏まえない政策が押し進められることがないよう、その動きを注視していかねばなりません。



▲参議院予算委員会にて